

IV-2. Discussion Paper Series

平成 18 年度に発行したディスカッション・ペーパーは以下の 7 編です。

* 概要の Web での公開を希望しない執筆者の概要は削除されています。

No.104 高田 聡:米国地域経営史における多文化主義的発展－1930年代ミシガン州フリントにおけるアフリカ系コミュニティの起業基盤を中心に－

No.105 山本 充:環境便益を反映させた環境指標の開発 Developing an environmental indicator including environmental benefits

概要：経済活動により発生する環境負荷と、農林業などの多面的機能に代表される汚染物質の吸収機能という環境便益を、エコロジカル・フットプリントの考え方により面積換算し、これらの比に基づき、マクロ・メゾ環境会計における会計単位の環境改善の度合い、持続可能な方向性を表現できる環境指標の開発を試みる。さらに、この指標を使用した GDP などの経済駆動力との関係を示すデカプリング指標の改良を試みている。

No.106 Mutsuhiro Kato:A Critical Investigation of Long-run Properties of Endogenous

概要：本論文は、内生的成長モデルの長期的性質を批判的に調べる。成長モデルは次の条件を備えている場合、望ましい長期的性質を持つと言われる。

1. 持続成長を伴う一意的定常状態が存在する。
2. 定常状態成長率の表現式が、パラメーター値の変化に対して頑健である。

外生的成長モデルはこれらの望ましい長期的性質を確かに持つのに対して、内生的成長モデルはこれらの性質を全く持たないことが示される。この結果は、新しい成長理論に対するソローの懐疑論の論拠を補強すると同時に、ソロー・モデルは依然として経済成長の標準モデルであることを示している。

No.107 Mutsuhiro Kato:What is National Income in Jones' Model of Growth?:An Expository Annotation

概要：本コメント・ノートは、ジョーンズの 1995 年発表の内生的研究開発に基づく成長モデルにおける国民所得勘定を明らかにするものである。とりわけ、中間財部門の導入が国民所得に与える影響を、付加価値と投資財価格の面から調べる。

No.108 Mutsuhiro Kato:A Further Analysis of the Consumer Behavior in Jones' R&D-Based Model of Economic Growth

概要：このノートは、C. I. ジョーンズの semi-endogenous growth model (1995, JPE) における代表的消費者行動モデルを調べ直し、看過されていた二つの最適条件を導く。その第1は、見落とされていたオイラー方程式から導かれる短期最適条件（”家計消費＝賃金率”）であり、第2は、動学的最適化が達成されるための選好パラメーター条件（”相対的危険回避度の逆数 > 1 ”）である。この第2の条件は、位相図分析から導かれる。更にこの位相図分析から、家計消費の最適成長率についての新しい表現式が得られる。最後にこの成長率を使って、最適化が達成されたときの効用積分が、無限大に発散することを示す。

No.109 松尾 睦;正岡経子;吉田真奈;丸山知子;荒木奈緒美:看護師の経験学習プロセス

No.110 Iida Hiroshi:Comments on knapsack problems with a penalty

Summary : The classical binary knapsack problem has numerous generalisations in relation to not only a capacity constraint but also an objective function. In 2006, two knapsack problems have coincidentally been proposed, both of which have an extension of the objective function paying the penalty. This article gives some comments on the two problems.